

シンポジウム「ヤングケアラーのための公平な未来」開催のお知らせ

本法人の事業につき、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私たちは、障がい者・児の日中一時支援事業（新宿区）等の援用により、精神疾患をもつ親と子どもの「家族まるごと」支援の取り組みを行っています。このたび、その一環として、標記のとおり、ヤングケアラー（若年介護者・児）をテーマとしたシンポジウムを開催することとしました。

厚生労働省によると、全国の小学6年生の15人にひとり、大人の代わりに家事や介護といった家族の世話を担っています。今回、第一部の普及プログラムでは、その困難とプレッシャーを、地域の小・中学生らと共有し、ヤングケアラーの大きな貢献について、互いに認めあう方法を模索します。

また、ヨーロッパで始まった「ヤングケアラー アクションデー」を記念し、第二部の啓発セミナーでは、イギリスからの報告と、日本国内における先駆的な実践の紹介をもとに、本年のテーマ「ヤングケアラーのための公平な未来」について、ともに考えてまいりたいと願っています。

関係機関の皆さまには、ぜひともご参加を賜りたく、次のとおりご案内申し上げます。

- 日時：2024年2月20日（火曜）
- 場所：会場集合 四谷ひろば（新宿区四谷4-20 四谷三丁目駅から徒歩7分）
オンライン zoom
- 内容：第一部 16:00 から 17:00（普及プログラム）3階多目的ルームにて（会場定員20名）
人形劇とお話し「みにみに劇場／サンさんのオープニングショー」
 - 劇団プーク（友情出演）
長い伝統をもつ現代人形劇団。TV、映画への出演のほか、常設ホール（JR 新宿駅南口より徒歩）や学校での公演を行う。
 - さんさんハウス（短期入所と日中一時支援）
◇ 対象：地域の小・中学生とその家族、その他どなたでも第二部 18:30 から 20:00（啓発セミナー）2階コミュニティルーム4にて（会場定員40名）
基調講演「違法薬物は子の未来に不公平な影響を与えるか？（仮）」
 - 松本俊彦（国立精神・神経医療研究センター・精神科医）
薬物依存症治療のプログラム開発、自傷行為の臨床研究、心理学的剖検の手法を用いた自殺の実態解明等を行う。これまでの治療経験から、当事者を孤立させる「薬物乱用対策」には批判的であり、日本版のハーム・リダクションを提唱している。（ウィキペディアより一部改）意見交換「ヤングケアラーのための公平な未来」
 - Andy McGowan（ケアラーズ・トラスト：英国ロンドン）
 - 小林鮎奈（こどもびあ：精神疾患の親をもつ子どもの会）
◇ 対象：医療・保健福祉、学校教育の従事者
- 参加費：無料



申込みは、右のQRコードまたはHP（<http://soteria.jp>）より参加フォームにて（先着順 締切2/16）
第三回YCAD実行委員会 電話 03(5879)4970
事務局：東京ソテリア メール info@soteria.jp

ヤングケアラー・アクションデー（YCAD）とは

ヤングケアラーと成年したケアラーの直面する課題について、社会の認識を高める日。彼らが充実した健康的な生活を送るうえで、必要な支援を提供するための多くの行動を促す日です。慈善団体のケアラーズ・トラストによって欧州内で広く認知され（2012年～）、政界、スポーツ、文化芸能など、さまざまな人々に参加を呼びかけています。

2024年のテーマは「ヤングケアラーのための公平な未来 一家族への介護は、その子の学びや遊び、人生を歩むときの障壁になっていないかー」。

いま日本では、家庭内で介護を担う子の、学校における支援の限界や生活費の危機によって、手助けを切実に必要とするケースが増えています。欧州の一部でも、ヤングケアラーの、人生の夢と希望を実現するうえで、不当な障壁に直面することが社会の問題になっています。彼ら彼女たちは、介護と学業の両立に苦しんでおり、小中学校や高校での適応や大学への進学、その後の就職などへの負の影響を受けていることは否めません。

本年のヤングケアラー・アクションデーでは、これらの子に、より公平な未来を実現することに焦点を当てます。ヤングケアラーが学び成長し、正しく評価され、充実した人生を送るための十分な支援と柔軟な関係性を与えることを求めています。ぜひこの日に、あなた自身の行動を起こし、あなたの周りに影響を与え、社会の意識を高めるための力添えをお願いします。

ケアラーズ・トラスト（英国ロンドン）

ケアラーのための、ケアラーとともにある慈善団体。無報酬の介護者が社会的に認知され、自身の生活に必要なサポートを生み出すことを目的としたキャンペーンを行います。



こどもびあ（精神疾患の親をもつ子どもの会）

精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人と、その支援者で運営しています。家族による家族学習会というピアサポート活動をおこなっています。

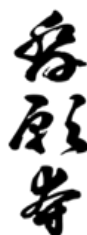


さんさんハウス

障害福祉サービスの短期入所と日中一時支援を通して、精神疾患をもつ家族の子、ヤングケアラーの子どもたちを積極的に受け入れています。



サポーターの皆さま、ありがとうございます！



©やなせたかし/やなせスタジオ